

論 壇



今瀬 政司

沖繩にある基地問題のニューズが、わたしの住む大阪でも連日報じられています。わたしも何か責任を果たせないかと、新聞やテレビ等で動向を見ていますが、実際に基地のまちでどんな問題が起こり、地元の方々がどう考えているのかが分からず、先日、沖繩にお邪魔させて

いただいた。
先入観抜きの真っ白な頭で、在日米軍基地の75%が沖繩にあることを体感・理解するために、沖繩本島のほとんどの基地のまちを地元の方の案内で見回った。重々しい空気に包まれた基地の施設や装備の数々。基地の境界フェンスが左右に延々と続

日本と違う沖繩に衝撃

基地解決の困難さ 痛切に

く道路。基地に隣接して危険な状態にある幼稚園や学校。会話が途切れるほどバチバチと大きな音をたてて頭上で飛ぶヘリコプター。普通の道端で偶然にも訓練米兵に遭遇した時の恐怖心。基地内の広大な芝生の中にゆったりと点在する米軍施設や、基地内外の軍人軍属の人たちの

高級住宅。対照的に狭い土地にひしめき合って立ち並ぶ沖繩の方々の家々。軍人軍属の自家用車と交通事故に遭遇したら、解決が難しいことがあるとの話。観光地や暮らしの場などもお邪魔した。そこでは基地の重々しさとは対照的に、まばゆいばかりに美しく開放感に満ちあふ

れた海、優しく包み込んでくれる豊かな森、地元の方々の優しい笑顔や温かい心遣いに出会った。県内でも地域によって全く違う沖繩があることを知った。また、国や自治体の職員や住民など多くの方々のお話を伺うとともに基地問題の解決策、経済振興策、人材育成策などの意

見交換もさせていただいた。基地の見返りの経済振興策では、経済効果は無くまちは寂れるばかりだとの話を多く伺う一方で、雇用が生まれて若者が帰ってきたとの話も伺った。沖繩の方々の「痛み」「犠牲」の上に、本土に住む自分たちの生活・経済が成り立っていることを痛感

した。

これまで何度もお邪魔した沖繩ですが、わたしが知る日本とは全く違う日本が沖繩にあることを「衝撃」を持って知り、基地問題の解決がとてつもなく難しいことを痛切に感じて、自分の認識の甘さを強く反省しました。

基地がなくなると、みんなが仲良く平和で豊かに暮らせるようになるには、どうしたらいいのか、わたしにはまだ分かりません。ですが、今まず自分のできることとして、沖繩の人たちの現実を本土の人たちに伝えていきたい。そして、本土に住む自分たちが自らの問題として、沖繩の人たちと一緒に問題解決に取り組んでいきたいと考えています。
(大阪府、NPO法人市民活動情報センター代表理事、42歳)